

運転士の異常時対応能力向上に向けた教育プログラムの開発

喜岡恵子 澤貢 北村康宏 赤塚肇

運転士は、自列車により鉄道運転事故や輸送障害(以下、「事故」と略す)が発生したとき、原因が把握できなければ不安になったり、自身のエラーが事故の端緒になっていれば動揺したりするだろう。そのような感情の動きに注意

資源が奪われて異常時の対応ができなかったり、異常時対応を終えたところで事故をどのように報告するか注意資源が奪われてエラーをしたりすることがある。そこで、そのような心理状況を疑似体験し、エラーが事故に繋がらないよう、エラーを重ねないようにするための教育プログラムを、列車運転シミュレータを利用して開発した。シミュレータには5つのエラー誘発課題を組み込み、18名の現職運転士に実施し、さまざまなフィードバックを行ってプログラムの妥当性を検証した。図はフィードバックの一例である。運転行動を可視化することにより、自身の誤り

に気づいたり、運転の特徴を意識化したり、エラー過程の理解を深められるようにした。

(鉄道総研報告, 2009年9月号)

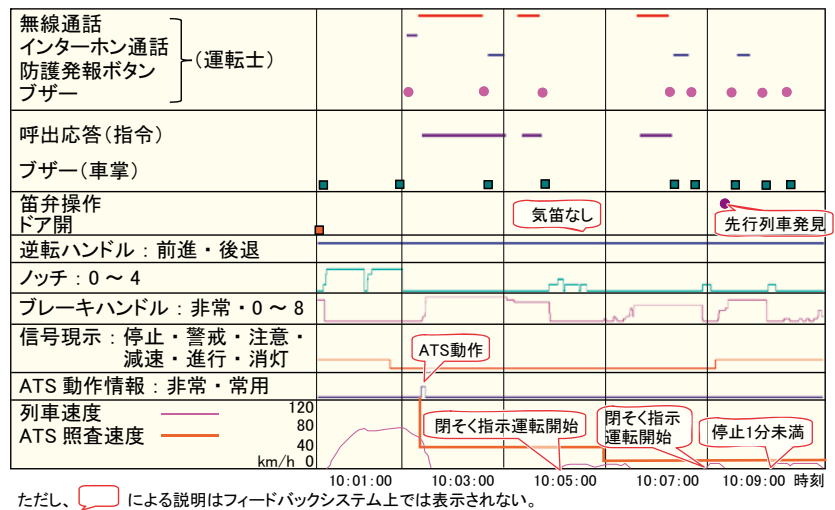


図 課題3(信号機消灯)における運転環境と運転行動